

産学連携の方法論

立命館大学 川村貞夫

産学連携の方法

[1] シーズ駆動 大学のシーズを企業ニーズに

(A) 知的興味型

(B) ニーズ思いこみ型

[2] ニーズ駆動 企業ニーズを大学が解決

(A) 既存方法で解決できる場合

(B) 既存方法で解決できない場合

ニーズ駆動の基礎研究を重視

[3] ニーズ創生駆動

大学と企業がニーズを生み出す

学と産の本質的な情報交換が必要

初回目

- ・ お互いの情報交換 NDAを結ぶ場合と結ばない場合
- ・ 大学教員は一般にしゃべり過ぎる
- ・ 菓子箱一回法則？

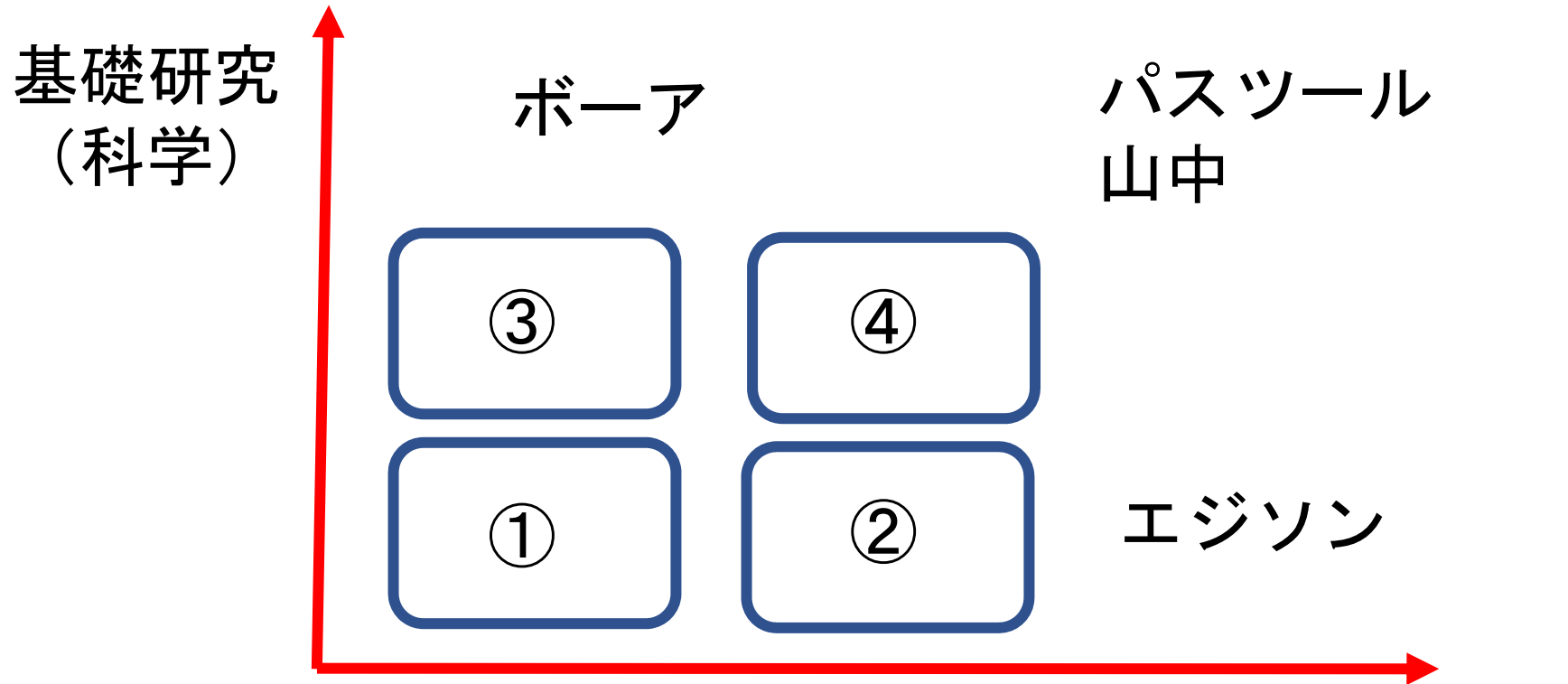
2回目

- ・ NDAを結んで互いの情報交換
- ・ 共同研究契約などへ発展

大学教員は何のために産学連携するかを明確にする

頭の整理のために

基礎研究と実用研究



- ① 練習問題的 学生の学習 研究費を獲得
- ② 論文は書き難くとも、社会に役立つ
- ③ 社会に役立たなくでも、論文は書ける
- ④ 社会に役立ち、論文も書ける

ニーズ駆動の基礎研究のために

